

協議会ニュース

56号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1996.4



力強く、ぐんぐん、美しく。
春の使者たちの目覚めです。

〈観察ノートから〉ホウノキヒトチキ
は、2月号で使った冬芽が伸びたものです。⑤

フェノロジーへのいざない

中西 正（副会長）

1 はじめに

転勤のシーズンである。転勤したては何事も新鮮である。仕事だけでなく、通勤途中や勤務先の自然すら新鮮である。そして、春という季節も手伝ってか、これらの自然を材料に何かできなかなと考えてしまう。

岡崎から田原へ移ったのは8年前である。通勤当初、通勤には渥美線を使ったが、この沿線は自然が豊かであった。缶コーヒー片手に自然を見ながらの40分の通勤は毎日が遠足であった。そしてこれらの自然の記録をしてみたいと思い出した。早速記録用紙（図1）を作成し、これに毎日の観察メモを加えていった。これを見直すと植物あり、鳥あり、風向きありであるが、

ここでは植物の変化をまとめてみた。

2 フェノロジーへの誘い

自然観察の方法として生物季節とか花暦の作成がある。根気がいる仕事であるが、昨今のような異常気象の自然に対する影響を知るには有効な方法と考えられる（中西1985）。しかし現在ではより学問的の色彩を含み、生物の生存戦略にも迫る方法と考えられている。この生物季節に限定せず、全生物の時間の流れに対する生き方を考える学問としてフェノロジーと呼称するようになった。日本生態学会のなかにも「フェノロジー研究会」が作られ、会誌を発行している。

今回まとめた渥美沿線の生物変化を図2に示す。

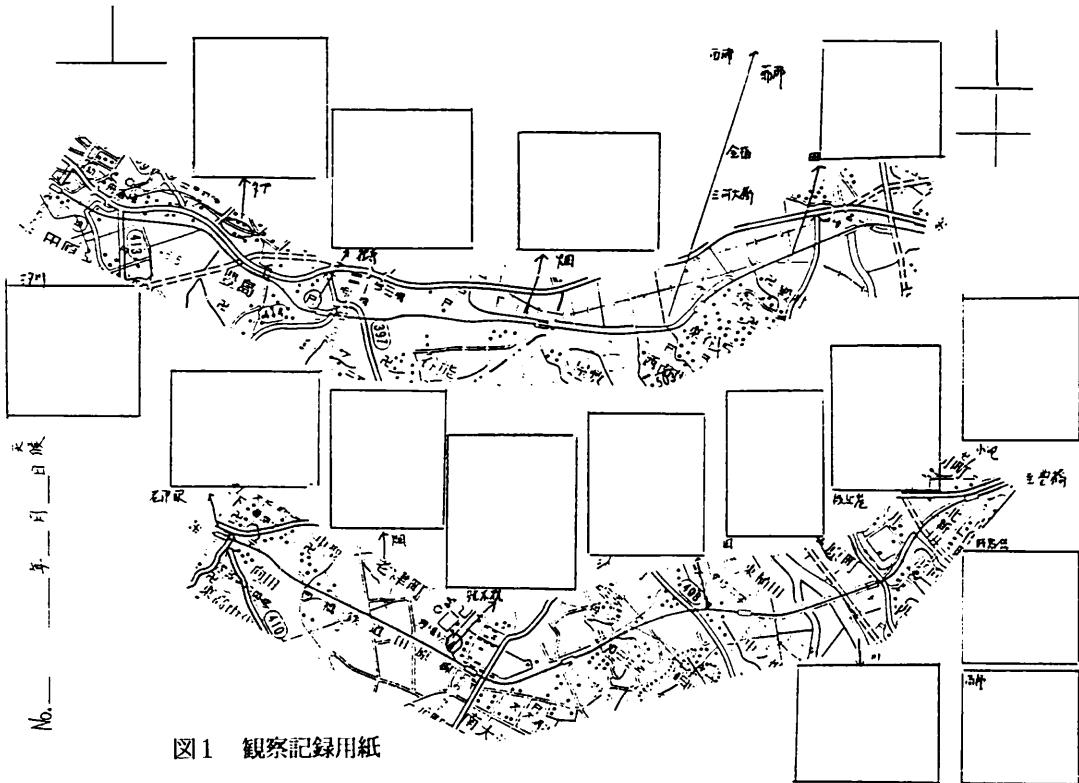


図1 観察記録用紙

図2 湿美線から見たフェノロジー 1990~1992での観察

観察内容を花・新緑・紅葉・種子という項目で分けると56種の植物で延べ78項目の記録になっていた。残念ながら、フェノロジー本質に迫る内容にはなっていないが、従来の生物季節としての季節変化は促えられたと考えられる。私にとって、この結果は渥美沿線の自然の季節変化を考える基準になるであろう。

フェノロジー研究会の会誌「フェノロジー研究No.25」(1995)では「自然教育としてのフェノロジー観察」を特集している。ここでは学校教育の中での自然教育や自然観察会にフェノロジーを取り入れている例が報告されている。学校教育の中での自然教育での利点は長期間、詳しく観察され、その結果が生物の生き方の解明に寄与することが上げられる。また、自然観察会では生き物を動的に観察できることに良さがあると考えられている。いずれの側面も私にとっては有用な指摘と言える。



3 観察会でのフェノロジー

私たちの自然観察会でのフェノロジーはどのような位置にあるであろうか。下見、例会等でフィールドに出た時、メモを取る人が多い。そのメモは多くの役割を持っているが、一度フェノロジーのためにまとめたらどうだろうか。その作業の中で観察不足が反省させられるかもしれないし、意識してなかったことに気づくかもしれない。何人かの情報を出し合えば、まとまるのが早いであろう。これらは自然記録の貴重なデータといえる。

また、フェノロジーの内容を自然観察会のメニューに加えたらどうであろうか。枝の伸び方、葉の展開の仕方、これらとの関連で冬芽の観察もいいのではなかろうか。もちろん開花や紅葉などのダイナミックな季節変化は参加者の興味を引くものである。

いずれにしてもこの分野は、観察技術の開発が期待されると考えられる。

4 参考文献

中西 正(1985)岡崎の開花カレンダー、岡崎東高校校誌「竜泉」2号:81-89

会員紹介

わが家の小宇宙

間瀬美子(東三河支部)

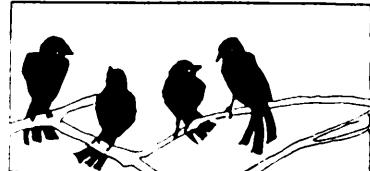
豊橋に住んで30年、わが家の周辺の変わりようと来たら、目まぐるしいの一言だ。

森や畑にかこまれ、音といえば豚や鶴の声がせいぜいだったのに、道路の開通と拡張に伴って、あれよあれよという間に市街地になってしまった。夜は分かたぬ自動車の騒音と排気ガス。林立する街灯は、ナイターでもできそうな明るさ。家を立て替えたなら、屋上に望遠鏡でも据えて…などという夢は、夢のまんまで終わり

そうだ。だが、道路に押しやられて狹まったわが家の裏庭にも、やっぱり季節はめぐって来る。

生け垣のつもりのイヌマキは、手入れをしないまま野放団に天へ向かい、いつの間にかその列の間にヤブツバキやクスノキがちゃっかりと入り込んで葉を茂らせている。

枝が上がってしまった空間には、ハランだのアゼリアだのサザンカだのがのさばり返っている。



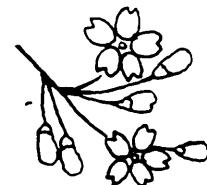
会員紹介

庭のまん中のハナノキは、生ごみのコンポストのおかげか、屋根を越すほどの高さに枝をひろげ、花に始まって、若葉、青葉、紅葉と、季節の移り変わりを律気に知らせてくれる。葉の茂みにキジバトの夫婦がじっと座っていたり、旅の途中の鳥たちが羽を休めることもある。

鳥たちのプレゼントか、木の下には植えた覚えのない幼木が次々と顔を出す。シャリンバイ、

ピラカンサ、タマサンゴ、クスノキ…ひよわな芽も、2~3年経つと、それぞれにおのれの領有権を主張はじめる。

騒音の中の小さな宇宙にも、自然のしづとさを感じ、楽しんでいる毎日である。



生活を見直そう

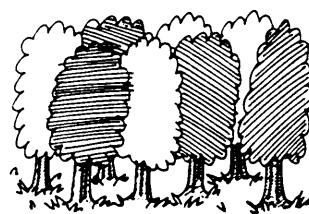
大谷敏和(尾張支部)

小学校の時、いつも野原でチャンバラやかくれんぼをしたり、田んぼや小川へ行っては、ざりがにやふな、なまずを捕まえたものでした。夜は、天の川もよく見える自然の豊かなところでした。しかし、今は、元田んぼだったところに住宅や大型スーパーが建ち並び小川はなくなってしまいました。子どもの頃の思い出になる場所が消えてしまったのです。自分が住んでいた家もありません。鉄筋コンクリートの建物があり、そこから出てくる人も全く知らない顔なのです。自分から過去が消された思いでした。

高校の時、名東区に引っ越しました。そこでも、山を削り住宅地にしていくという時代でした。市バスを降りて家に帰るのに気味の悪い夜道を歩いたものでした。あれよあれよと言う間に道路が出来、市バスが走り店屋が出来、どんどん便利になって行くのが実感しました。しかも、新しい街の人々も活気に満ちていました。高校生の私もわくわくしていました。ところどころ畑のある山が残り、犬の散歩に山の中に入りました。しかし、今は昔の面影はどこにもありません。便利になったが、結局今思うと自然がなくなることに対してとても寂しい思いがするようになったのです。

自然観察で山野を歩いているうちに開発の問題にぶち当たりました。「色々な花がすくなくなった。」「山にゴミがいっぱい。」本当に便利を追及することが、幸せにつながるのだろうかと。「自然を大切にしよう」などは、よく耳にします。でも、自然を破壊しているのは、今の自分たちの生活そのものなのではないか。「生活を変えよう」「生きる為の価値観を変えよう」そうしない限り自然を守ることは難しいのではないかとも考えるようになりました。

今、やっとマイカー通勤がやめられました。毎日の生活の中に、運動・自然観察を組み込みました。燃料を節約するために断熱材を天井裏に入れたりもしました。クーラーを出来るだけ使わないように天井裏の換気も考えました。自然が好きな人が増えるということは、自分の生活を見直してくれる人が増えるということだと思っています。



ネーチャーラリーの実施結果

高谷昌志（尾張支部）

今年2月11日（日）、愛知県森林公園協会主催の新しい行事「ネーチャーラリー」を32組 114名の参加を得て開催しました。

新行事であるネーチャーラリーのコンセプトは「自然観察入門」です。森林公園の植物園という施設が、行事をきっかけとしてその後も継続的に利用してもらえる、そんな企画を考えました。組織の立場から発想すると、その施設の目的に沿った利用促進が求められるのです。幸い、森林公園の植物園は「植物を主体に自然を観察し、これらの知識を身につけていただくため、教化と観賞を主体とした施設」という定義があるため、自然観察の楽しさを知つてもらい利用を拡大することは、組織の目的に沿った私たちの仕事と言えるのです。

自然の意味を誤解している人や知識がないために自然観察を躊躇している人たちにこそ参加して欲しくて、行事の形式は「観察会」ではなくクイズを中心としたお楽しみ企画「ネーチャーラリー」としました。

自然観察のフィーメドとしての植物園は、いささか整備され過ぎてはいますが、カモの来る岩本池、手を加えない「郷土の森」の自然林、湿地もいくつか点在し、また人造の庭園（沈床花壇・ふるさとの森）、広大な広芝生（4ha）、岩石園などもそれなりに多様な環境を構成し、意外に自然観察し易い場所なのです。

楽しく入門するためのカギはクイズの問題でした。身近な部署におられる事務局長の佐藤さんや、当公園をフィールドに利用されている尾張支部の鬼頭さんにも全面的に相談に乗っていただき、次の13問を設定しました。

（全般）

- ・今日の気温は何度でしょうか？
- ・春を感じさせる生物を一つ見つけてください。



（Aゾーン）

- ・カモやサギたちはこの池で何をしているのでしょうか？（解説付き）
- ・次の水鳥のうち、今日見たものはどれですか。（望遠鏡設置。絶対見れない鳥も含めて8種から選ぶ）
- ・ソヨゴの実はどんな味がしますか？
- ・この2本のヒサカキには、なぜ実のあるのとないのがありますか？

（Bゾーン）

- ・この場所の常緑樹を1種類、葉のスケッチをしましょう。（解説付き）
- ・昆虫のいた証拠を探しスケッチしましょう。
- ・1分間目を閉じて、聞こえた音を書いてください。

（Cゾーン）

- ・落ち葉あてクイズ（解説付き）
 - ・ツクバネウツギの種は、どちら回りで落下するでしょうか？（実験）
 - ・このマツの年齢は何才でしょうか？
 - ・樹皮から木の名前あて（コナラ・リョウガ）
- 解説付きとあるのは、そのポイントで、佐藤・鬼頭・松尾さんによる自然解説を聞いた上で問題を出すものです。

参加方法は、家族を意識して2～5名のグループとしたので、子どもが52名参加した一方で年配者もあり、多彩な年齢構成となりました。3つのゾーンに分けたのは、参加者が分散するようにしたためです。10時にスタートし、問題を解きながら12時ま

でにゴールし、その後問題解答の説明をしました。提出された解答は、採点して返しました。100点が2名で、80~90点が多かったです。

参加者の多くは、カモ類を見て喜んだり、回転するツクバネウツギの種に感心したり、ソヨゴの種の苦さを味わったりと、今まで体験したことのない楽しみを発見し、自然観察へ少なからず「入門」できた

のではないかと思います。「楽しかった。」とか「次はいつですか。」等の感想も聞かれました。

今思えば、経験の浅い我々にとって、大胆不敵な企画でしたが、皆さんの援助で成功させることができました。三段跳びでいうと「自然観察から自然保護へ」のその前の一步、ホップとして、これからも裾野を広げていければと思います。

コラム

我輩はカヤツリグサである

私には自分の名前があるのに、皆さん方から「カヤツリグサ科の仲間です」とだけ言われ、誰々さんといった名で呼んでくれません。ひどい方になると、花が咲いているのにあっさりと無視されて、見てもくれません。寂しくて悲しい。

花は綺麗とはいえないが、でもよく見てさえくれれば、それぞれ個性のある姿形をしていて面白くなり、興味が湧いてきます。美しい花が咲く植物同様に可愛がって貰いたい。

また、食用にもならず、薬用にもならず、何の材料にも飾りにもならず、人間様に何の役にもたっていないのが原因でしょうか。これでは、差別待遇です。もし、薬になるものが見つかったらどうなるでしょうか。

私たちは、自然豊かな所が好きです。殊に水を好むものが多く、湿地や池の岸、休耕田などにすんでいます。なかには、山地や林地が好きなものもいます。

市街地や開発地は嫌いなので、近年の自然破壊で私たちも減少しているのが現実です。言い換れば、自然の指標にもなると思いますが如何でしょうか。

自然爱好者の方々。私たちは自然豊かな所にすんでいますので、もっとご理解をいただき、可愛がって下さい。美しい花や役に立つ植物ばかりでなく、目立たず役に立たないものも愛することは人の道にも通ずるのでは無いでしょうか。

最後にイネ科によく似ていると言われますが、茎が3稜形であること、葉の鞘は合生することなどによって、外見でも区別できますので、よろしくお願いします。

〔相羽福松〕





子供が楽しんだ「朽木に住む虫の観察」

降幡光宏（知多支部）



朽木に住む虫の観察は5～6年前に「豊田市自然観察の森」で長尾さんが計画され、北岡さんの指導で実施されたのに参加したのが最初でした。当時のことを思い出してみると、虫の名前も、やった方法も、使用した道具等もすっかり忘れてしまいました。子供たちと楽しく過ごした思い出だけが残っていましたので、ぜひ「朽木に住む虫の観察会」を実行したいと思いました。そこで、知多自然観察会の行事として提案することにしました。知多自然観察会の行事予定は、毎年2月初めに行う総会で1年間分を計画し、同時に各行事の担当係も決められます。よって96・3・10（日）に知多市大草公園で行われた「朽木に住む虫観察会」は昨年2月に支部総会の時に決められていたことになります。

知多市大草公園で観察会を実施するに当たり、知多市の後援を依頼することにしました。これは後援をとることにより、市民を対象に、市の行政活動等を月に2回、広報伝達する「広報ちた」に観察会の参加募集を載せていただけることです。そして今回、後援を取り3月1日号に載せていただきました。内容は募集人員30名。持ち物、図鑑、軍手、ドライバー、プリンの容器。ハイキングができる服装。小学生以下は保護者同伴としました。また、問い合わせ先

を加藤と降幡にしたところ、二人合せて7～8世帯から電話での申込がありました。

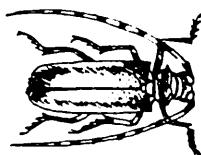
開催日の3月10日（日）は天気が良かったが、冷たい北風が少し吹き、肌寒く感ずる日でした。それでも申込者の全員が出席し、参加者の出足がよく参加人数は大人14名、子供17名でちょうど予定した人数でした。参加者に参加申込書を書いていただきてから広場に集合していただきました。担当者は昆蟲全般に詳しい水野さんで、冬季の虫の生活と採集方法の説明をしてくれました。子供たちが目を丸くして聞き入っていました。簡単な諸注意のあと森の中に入りました。公園の森はつい最近まではほとんど人が加えられずに放置されていたため、照葉樹林が少しずつ回復し、色々な生き物がもり、多様性に富んだ森ができつつありました。その森に最近、斧が入れられました。林内の細い樹木や叢生の植物を刈り取ったり、森の縁にあるフジ、ビナンカズラ、ティカカズラ、ヘクソカズラなどマントを造るツル植物をきれいに



取り扱ってしまいました。また、林内の朽ち掛けの倒木もきれいに片付けてしまいました。森の中は明るくなり、日光が長い時間射すようになりました。森の入口は、落葉もかたづけられ地肌が出て、埃が立つくらい乾燥しています。幸いに今年度は森の奥まで刈り払うまでの予算が無いようで、一部自然が残り林床に朽ちた倒木や落葉がたくさん有るところがありました。そこへ皆さんを案内し、観察採集作業を開始しました。参加した人達は昆虫に興味のある人ばかりで、日光の当たらない森の中で、朽木を分解し昆虫採集をし始めました。採集方法等のアドバイスをしないで放置しておいても、家族単位で採集道具や容器を持参し、工夫をしながら楽しく虫集めをしていました。まだ皆さんが夢中になっていましたが、40分位の作業で引き上げの合図をしました。森から引き上げるときに家族で一番お気に入りの、朽木を一本づつ森の外に持ち出していただきました。日当たりのいい平らなところに1.8M×1.8Mの白布を敷きこの上に朽木を置き分解することにしました。ここでも子供たちが夢中になり朽木を分

解しました。未知の世界から次々とキマワリ、カミキリムシ、コクワガタの幼虫が取り出されるたびに感激をしていました。さらにスズメバチやコクワガタの成虫が見つかる度に怖がったり、喜んだりして時間を忘れ、お昼まで朽木の分解をしました。最後に皆で分解した朽木と虫を森に返してやりました。

今回実施した行事の内容を考えてみると、相当後ろめたいことをしたと思っています。たくさん人を集めて朽木を碎き、安眠している虫たちを呼び起こしてしまったり、森を踏み荒らしてしまいました。できれば自然を傷つけずに自然に親しむことができればと思います。今回参加された子供たちはみんな小学生以下だったので実体験ができて良かったと思います。自然に親しみ、色々な体験できる自然を少しでも身近に残す運動につながればと思います。



図鑑の使い方

篠田陽作（名古屋支部）

自然観察指導員にとって図鑑は必需品と言っても言い過ぎではないくらいに使用回数の多いものです。それだけに使い勝手がよいものを選びたいものです。

しかし一口に図鑑と言っても、種々多様なものが出来ていて、どれを選ぶかとなると、迷ってしまいます。私の経験から言いますと、これがベストと言えるようなものはなくて、使い方によって、最低でも3~4種類の図鑑が必要な気がします。

まずフィールドに持って出かけて、手軽に使う目的ならば、写真版の季節別に、春、夏、秋に分けた野草図鑑などが便利です。又最近は季節別の野草と樹木が一緒になったポケット図鑑なども出版されています。これらは手軽でいいのですが、細かな違いや、見分けのポイントなどが判らないなどの不便があります。そんな部分を補ってくれる図鑑にすでに古典と言ってもいいほどの保育社発行のカラー・ポケット図鑑の『人里の植物、1、2』があります。これは判

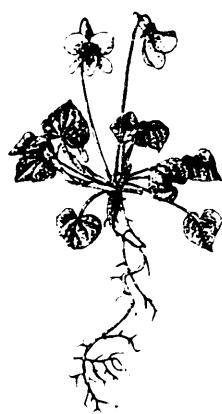
り易い図版と簡単な解説がついて初心者にも判り易く、使い勝手の良いお薦めの一冊です。

今までの図鑑はパラパラとページをめくってお目当ての植物を探すものなのですが、今度は検索という作業をして、植物の名前を探す時に使う検索図鑑についてお話をしてもうまきましょう。この図鑑を使用して植物の同定が出来れば立派なものです。例えば花からある植物の検索をする場合は、がくも花弁もない花、がくがあっても花弁がない花、がくと花弁のある花で花弁が一枚一枚離れる、花弁はもとがくついて離れないもの、などとなかなか専門的で判りにくいうちの花です。しかしこれも慣れてくれば以外と簡単に目指すものに辿り着けるようになります。その為にはまず植物の特長をしっかりと、観察出来ることが必要です。

まったく逆のようですが、図鑑を巧く使いこなすためには、一つでも多くの植物を見て、その植物の特長をいかに正確に観察できるかが大切な要素です。正確な観察力を身に付けることが図鑑を巧く使う近道ではないでしょうか。

その他に植物誌と呼ばれるものもあり、これは対象とする地域に生育する総ての種を列挙することを意図したもので、完全な植物誌には総ての種に至る検索表や記載が付いているものがあります。家に置いてじっくり調べるにはやはり『牧野植物図鑑』がよいと思います。少し値段が高いのですが、是非手元に置いておきたい一冊だと思います。その他に葉から検索する図鑑や、花の色から検索する図鑑など、色々な図鑑などがあります。

その他にも植物の生育地別の図鑑、高山の植物、海辺の植物、高原の植物、田畠の植物、水辺の植物、など様々な図鑑がありますから好みによって買ってみるのもよいでしょう。いず



れにしても最初は植物の名前を知るために図鑑を使いますが、そのうちに植物の植生や生態、その歴史なども調べることになると思います。そんなことも考えて図鑑を購入してください。

次に野鳥の図鑑ですが、これはなんと言っても、日本野鳥の会発行の『野鳥識別ハンドブック』をお薦めします。生態や近い種類との見分けポイントなどが細かく記載されていて、参考になります。

次に昆蟲の図鑑ですがこれは今までの植物や野鳥に比べると、種の数が桁違いに多く、完璧に図鑑を揃えるとなると大変です。ですから自分のレベルに合った図鑑を選びましょう。とりあえず中学生か高校生ぐらいのレベルの図鑑で充分でしょう。私は『旺文社学習図鑑携帯版昆蟲』を使っています。家には保育社の昆蟲図鑑全巻ありますがほとんど開いたことはありません。その他には小学館の自然観察と生態シリーズの『野山の昆蟲』と『庭、畑の昆蟲』を使っています。これはどんな植物にどんな昆蟲が集まるかなどが判り易く解説されていて重宝しています。是非お薦めの一冊です。

いずれにせよ図鑑は使いこなさなければ意味のないものですから、普段から手元において暇があればページを開いて眼を通してください。そうすれば手に馴染んで、いざと言うときには貴方の強い味方になってくれることでしょう。

そして単に名前を覚える為だけではなく、植生や生態にも興味をむけて、巾広く理解するための、手助けとして利用してください。そして図鑑だけではなく、植物や、昆虫、野鳥などのことを書いた随筆や、ファーブルの植物記、シートンの動物記等の文章で書かれた知識なども頭に入れておくと、観察会での話に奥行きや広がりが出来て楽しいものになると思います。日本人は古来自然に造詣が深く、古くは古事記や万葉集、枕草子などにも自然や草木について多く書かれています。図鑑の情報にいかに貴方の味付けがあるかが、楽しい観察会にするための秘訣かもしれませんね。

レッドデータブック愛知県版のご案内

村松正雄(尾張支部)

愛知県植物誌調査会で作成していたレッドデータブック愛知県版「植物からのSOS-愛知県の絶滅危惧植物」が、やっと出版の運びになりました。関心のある方もいらっしゃるのではないかと思い、この場を借りて、ご案内させて頂きます。

本はB5版で、3つの部分から構成されています。最初の部分はカラー図版32ページで、自然林、二次林、草地、湧水湿地、低湿地、海岸などの環境ごとに、景観と、絶滅が危惧される主要種の生態写真で構成しました。次の概説部分では、なぜ植物を保護するのか、愛知県の自然環境、絶滅危惧状態に追い込まれている原因、今後るべき対策、特に保護を要する植物群落などについて、概略を述べています。第3部は「要保護種の現状」として、絶滅危惧種のリストと各種の現状を解説しています。図版を除く本文は、130ページです。掲載種の総数は、下の表のとおりです。

掲載種の選択の基準は、ほぼレッドデータブック全国版に準じています。ただし、愛知県で

は稀ではあるが隣接県では普通に見られる種（例えばミヤマウメモドキなど）は、関連する種の項に附記するにとどめています。

定価は2500円です。本来なら献本しなければならない方も多いのですが、全くの自費出版企画で会の財政に余裕がないため、失礼をお許し下さい。カンパと思って、ご注文いただければ幸いです。名古屋市の星の書店（本店、丸栄スカイル店、近鉄店）、丸善、岡崎市の岡崎書房（本店、岡ビル店）、豊橋市の精文館、豊川堂などには置いてもらえる見込みですが、直接ご注文いただく場合、愛知県自然観察指導員連絡協議会会員の皆様には送料当方負担でお届け致します。「愛知県自然観察指導員連絡協議会会員」と明記の上、郵便振替で2500円×部数をご送金ください。10部以上は1割引です。

申込先 振替 00820-7-20001

愛知県植物誌調査会

(〒448 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学生物学教室内)

植物群	シダ植物	裸子植物	被子植物			計
			離弁花類	合弁花類	単子葉類	
絶滅	2		5	6	13	26
現状不明	1		4	3	1	9
絶滅寸前	6		14	19	19	58
危急	8	2	35	43	52	140
稀少	16	2	35	23	30	106
固有	1		4	1	2	8
全国的に危急			2		1	3
計(A)	34	4	99	95	118	350
自生在来種数(B)	270	20	790	520	600	2200
A/B	0.126	0.200	0.125	0.183	0.197	0.159
付記種数	18	1	43	26	29	117

自然観察会に参加して (1)

事務局から

昨年11月の自然観察指導員講習会に参加して、新しく指導員となられた方に、3回程度自然観察会に参加して、その感想を書いていただくようにお願いしました。

内容からみて、名前を書いても差し支えないようですが、忌憚のない意見を出していただくために匿名にすると約束しましたのでそれに従います。期日は平成7年11月から平成8年3月までのものです。

なお、かなり分量が多いため、一部省略したものもあります。

＊＊＊＊＊

1/14・2/11・3/10 大高緑地

人数が50人位と多くても班分けをせずに皆一緒に回り、それぞれの指導員が得意の分野を担当し、説明してくれる。取り上げる植物も身近な松、桜、梅、椿など、どこにでも見られるもので、自分では気が付かないことを教えてもらえる。その時ゆっくり見れなくても、後でゆっくり確認することができ、より親しめる。

3/20 猪高緑地

班分けをして、1グループ7～8人で、それぞれの指導員について回る。コースは指導員により多少異なり、見るものも違ってくる。途中で参加者が入れ替わっていた。絶対に取らないという約束のもと、シユンランを見る。

感想

身近な生き物をとおして自然との係わりの大切さを学び、これから先少しでも多くの植物や昆虫などが残せることをめさして、一人ひとりが自然に親しめる観察会が

できたらと思いました。



＊＊＊＊＊

12/10 大高緑地

◎テーマ：パートウォッチングと落ち葉
◎観察したもの：サクラ・エノキの葉脈の特徴、クリとアベマキの葉の違い。ケヤキの手をあげたような枝振り。スズカケノキの葉柄のつけ根が筒状になっていることやセンニンソウの羽毛状になった種。
◎感想：お天気に恵まれた今年最後の観察会。つい足をのばして予定時間を大分オーバーしてしまいました。この時期は、双眼鏡なしでもよく鳥を見ることができ、参加者の人達も喜んでいました。フウの並木には球果がたれさがり、12月のリースとして飾りを作るとおもしろいといって集めている人、マツボックリの形の良いのを搜して歩いている人など、さすがに12月という季節を感じました。

1/14 大高緑地

今年最初の観察会。曇り空ですが、気温は暖かく風もない。柳川さんのグループの「学童保育たけのこ」の親子づれが多数参加され、賑やかに始める。

◎テーマ：冬芽と葉痕

◎観察したもの：サザンカと椿の違い、ツツジの葉のでかた(2度葉をつける)。ハンノキの雌花と雄花。サクラ・コブシ・トチノキ等の芽。ニセアカシア・アオギリ・アジサイの葉痕。

◎感想：観察会終了後、柳川さんの用意してくださった豚汁がとてもおいしかった。なお、今年は鳥が非常に少ないという気がになりました。

1/28 物見山(瀬戸市)

1月の終わりにしては珍しく穏やかな日になり、大勢の参加者で始まりました。

◎観察したもの：アラカシ・ツブライの林。冬の常緑の植物。マンサクの花が今年は少ない。篠田池のアシの中にカヤネズミの巣を発見。ハクビシンの糞。

◎感想：大正池で写真を撮っていた人と言い争いになりました。私たちがうるさいといって怒り出し、鳥が逃げるから静かにしろというわけです。今話題の物見山は観察ラッシュ！ 自然を愛する人であればお互いを尊重しようではないか……。一時はどうなることと心配したが、多勢に無勢とあきらめたのか、言い争いもおさまりホッとしました。いろいろなグループがたくさん入り、またこのようなことが起きるでしょう。

2/11 大高緑地

◎野鳥の巣箱かけ：斎藤さんが用意してくれた巣箱10個ほどを雑木林の中にみんなで取り付けました。太陽の光や雨が入らないようにというような説明を聞きながら、野鳥が入ってくれるのを期待して……。

3/7 東山公園

あいにくの雨で少し肌寒い。こんな日に観察会を始めるとは、何かきっといいことがあるかも？

◎観察したもの：オオミズゴケとハリミズゴケ。ヤチヤナギやヌマガヤの枯れ葉。コシダ・アオハダ・コシアブラ・タカノツメ・タブノキ等。

◎不思議なもの：アベマキ・コナラの樹皮から水のようなものが流れ出て、下の地面で泡をふく。臭気はない。雨降りも何か影響があるのだろうか。

3/24 相生山緑地

◎観察したもの：春の花（オオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウ・ホトケノザ・ハコベ等）。カンアオイが多く見られた。ツグ

ミの渡り。

◎最後に近藤さんが用意してくださったケンチン汁を食べる。ツクシやフキノトウを少し汁の中に入れて、春を味わう。

感想

「近くに住んでいて、こんな自然が残っているのに気付かなかった。身近な自然を足元から感じたい。友人に誘われてきて感激したから、また友人を連れた来た。子供の頃ここでよく遊んだから、懐かしい。」

こんな声を聞きながら一緒に楽しみながら歩きたい。毎回参加者が増えてくる様な観察会になったらいいなあと思います。大高の豚汁や相生山のケンチン汁など準備がたいへんと思いますが、わきあいあいの雰囲気で、話がはずみ、次回が楽しみになるようなものもいいと思いました。



子どものころ田舎で育ったこと也有ってか、大人になって自然恋しさに、自分なりに自然と親しんできました。昨年、自然観察指導員の講習会を受け、改めてこれまでの単に自然に親しむことから、自然をじっくり観察してみよう、各地の観察会に積極的に参加し、自分のテーマをみつけよう重い、3月までに次の観察会に参加させていただきました。

11/3 春日井少年自然の家（協議会）

12/3 1/7 2/4 森林公園

12/17 1/21 3/17 東山公園

3/3 大森湿地 3/9 定光寺

3/20 猪高緑地

協議会主催の自然観察会は、「植物がどのように広がっていくか」というテーマでした。ところが、当日は参加者から“あの木は、この草は何という名前か”という質問が多く出され、それに指導員が答え、説明するという観察会でした。

たしかに、多くの植物の名前を知ること

は大切であり、また、知ることは楽しいことだと思います。しかし、植物の名前を知ることが目的ではなく、その場所の自然に関心を持ち、自然の仕組みを知ることではないか、と思いながらも結構植物の名をメモし、楽しい一日を過ごしました。ただし、わずかな間に、いろいろな木や草の名を教えていただき、少々消化不良を起こしましたが……。

このことは、自己反省を含め、一般的に自然観察会とは植物や動物・野鳥の名前を教えてくれる場と思っているのではないか。反面、自然観察会自体もそんなイメージを与えていているのではないか、ということを初めて参加し、考えさせられました。

半日なり一日で、あれもこれも覚えるのは、大変なことです。その日のテーマに沿って、これだけは知りたいこと、ポイントを押さえ、あとは自然の素晴らしさや美しさ、あるいは、その自然の特徴を知る、そんな観察会もあつたらよいのではないか、と考えました。

そうして、もうひとつ気になったのは、観察会が始まる前にしおりをいただきました。家へ帰ってから、よく読み考えればよいのですが、折角、当日の資料として配布したのですから、観察を始める前にしおりの説明があれば、有効に活用でき、生きてくるのではないかと思いました。

一方、各支部で行っている観察会は、先に参加した観察会とは趣がガラッと異なりすっかり戸惑ってしまいました。というのも、まわりの参加者がそれぞれご自分のテーマを持つキャリアのある指導員ばかりだったからです。

こうした中で、自然観察に対する知識の乏しいビギナーが果たしてついてゆけるのだろうか。また、初步的な質問をしてもよいものかどうか、といったちゅうちょと不安。なんとなく観察会に溶け込めない雰囲

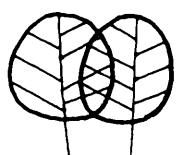
気など、このような複雑な気持ちを抱いたのは、私ひとりだけかもしれません。

もちろん、参加することにより、自然についてのいろいろな知識や、これまで出逢えなかったイチヤクソウなどの植物とかオオタカなどの鳥も見ることができ、都市の中に雑木林が残されていることなども知ることができました。

自然観察は、一人でもできますが、一人で観察するより、より多くの人たちと観察すれば、それだけ発見も喜びも多くなり、情報交換の場にもなると思います。出来れば参加者全体が話し合える共通の話題を一つでも加えていただければ、初めて参加した者でも雰囲気に解け込めるのではないかでしょうか。

それと、支部で行っている観察会は、自己研鑽の場なのか、それとも身近な自然を考える観察会なのか、あるいは自然を守るためにものなのか、もうひとつ掴めなかつたというのが正直なところです。

少しの観察会に参加しただけで全体的なことをいうのは危険ですが、それを恐れずに言えば、テーマを追求し観察している指導員はいますが、継続したテーマで観察を続ける観察会はないように思います。自然についての興味の持ち方は個人々々違います。そのため観察会で共通のテーマを持つにはいろいろな問題もありますが、ただ漠然とその時々のテーマを決めてするより、継続性のあるテーマを設定すれば、マンネリ化もなくなるのではないでしょうか。そうすれば、参加者全員がその観察会に参加できるし、その観察会の係の人の負担も軽減されるのではないでしょうか。また、新人が解け込めない雰囲気の問題や、知識の格差の問題にしても、それほど気にせずにやっていけるのではないかと思いますが、いかがなものでしょうか。



事務局から

[行事結果]

★ 理事会

〔期日〕平成8年3月3日（出席11名）

〔場所〕産業貿易館

主に総会の議案となる事項について検討し、総会議案をまとめました。

★ 普及部会

〔期日〕平成8年3月10日（出席8名）

〔場所〕名古屋市公会堂

平成8年度の自然観察会や研修会の進め方について検討しました。

県委託の観察会5回とそれに準ずる協議会主催の観察会を「ふるさと自然観察会」とし、「シリーズ自然観察会」（テーマ：湿原）とともに昨年以上に充実させたいと考えています。

また、「自然と接するためのマナー」の原稿の検討を行いました。

★ 総会

〔期日〕平成8年3月24日（出席27名）

〔場所〕竜美丘会館（岡崎市）

今回は、三河地域で総会を開催しました。総会の運営に面白さが欠けるためか、参加者が少なかったのは残念でした。来年は、何か考えたいと思います。

○総会議案

第1号議案「平成7年度事業報告」

第2号議案「平成7年度決算」

第3号議案「平成8年度事業計画」

第4号議案「平成8年度予算」

第5号議案「役員の改選」

第1号から第4号議案は原案どうり承認されました。また、第5議案の会長、副会長、監事の改選は、理事会から推薦のあつ

た現在の役員がそのまま承認されました。

総会後の意見交換会では、行事の参加者を増やすための工夫がないか、情報提供の機能をもっと充実する必要があるなどの意見が出されました。

○講演会

大平仁夫氏により愛知県の昆蟲相の特徴についてスライドを交えてお話をありました。

○懇親会

希望者10名余りが近くの飲み屋へ集まり懇親会を行いました。

☆ 基礎研修会「冬芽と樹形」

〔期日〕平成8年2月24日（出席11名）

〔場所〕大高緑地 〔講師〕篠田陽作

冬芽の形、葉痕の形などの観察を行いました。大高緑地には植えた木も含めて多くの木の種類があり、観察しやすい場所といえます。

☆ 基礎研修会「土壤の観察」

〔期日〕平成8年3月9日（出席15名）

〔場所〕定光寺 〔講師〕松尾 初

定光寺の定例観察会と重なり、参加者が多くなりました。

土壤調査は大変な作業で、松尾さんの穴を掘ることの巧みさに驚かされました。きれいに掘られた土の断面は、土壤の各層や微妙な色の変化などが観察できました。

☆ 基礎研修会「農耕地の植物」

〔期日〕平成8年4月7日（出席5名）

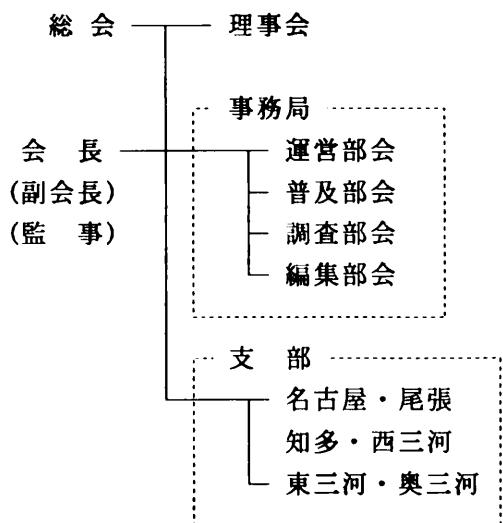
〔場所〕三好ヶ丘周辺 〔講師〕篠田陽作

今年は寒いため、春の來るのが遅く、まだ早春の農耕地の植物を楽しみました。

〔協議会の性格と運営 ②〕

3 会の組織

協議会の組織は、会の「規約」と「組織運営規定」により定められています。体系図をまとめると次のようにになります。



毎年の事業計画や会費の額等の重要なことは総会で定め、会の運営に関する基本的なことは理事会で検討することとなっています。理事会は、会長・副会長・監事・各支部長・各部会長等で構成し、年3回ほど開催しています。

会を運営する事務局は、運営部会・普及部会・調査部会・編集部会の4つで構成しています。部会には、各支部から選ばれた部会員等がいて、隨時打合せをしながら会を運営していくこととしています。

かつては、運営的なことは運営委員会で決めていましたが、会員の増加等に伴って増える事務を分散するため4つの部会を設けたのですが、実質的には運営部会長が数人の方の協力を得て、大半の事務を進めています。このため、今後とも事務量の分散が課題となっています。事務だけでなく企画等も含めて、意欲的に協議会の運営に取り組んでいただける方を期待しています。

また、会員は6つの支部のどれかに所属

し、協議会の進める自然観察会などは、各支部に依頼して、支部が主体的に行ってています。

愛知県の協議会の特徴として、支部は協議会の支部であるとともに、例えば名古屋支部が別に名古屋地区自然観察研究会というような名前を持っているように、一つの団体としての側面も持っています。これは、設立時に、各支部が実質的な活動主体で、協議会はその連合体という考えがあったことによりますが、支部の事業と協議会の事業の境がはっきりしないなどの問題もあり、一応総会資料等では、支部の事業も協議会の事業の一部としています。

会員の増加に伴い、支部のメンバーも増加し、名古屋・尾張などは100名を越えるようになって、支部の事務量も増えています。支部のあり方も検討する時期にきているかもしれません。

会員の動き

【加入】

- ・林 石根 (名古屋支部)
〒464 名古屋市千種区見附町 1-38-5
(☎ 052-782-4806)
- ・高橋千恵子 (尾張・知多支部)
〒478 知多市南粕屋 3-154
(☎ 0569-43-0857)

【脱退】

- ・加藤敏和 (尾張支部)
- ・菊地久乃 (西三河支部)

【住所変更・表示変更】

- ・山内美穂子 (知多支部)
〒470-23 武豊町上山田 95 (☎ 同前)
- ・渡辺由美 (知多支部)
〒470-21 東浦町緒川稗田 26-5
(☎ 0562-84-1425)

自然観察会（場所：善師野）の運営にご参加ください。

犬山市が募集し、尾張支局が委託を受けて行う観察会です。例年100名くらいの参加者がいます。（委託費は支局の運営費に充てられています）

参加者の方に、楽しい観察会を経験していただけるようがんばりたいと思います。まだ観察会に不慣れな方でも、運営の実際を経験する良い機会になるようにしたいと思います。奮ってご参加ください。

連絡先：支局事務局 05613-8-2792 鬼頭

場所：名鉄広見線 善師野駅前から出発

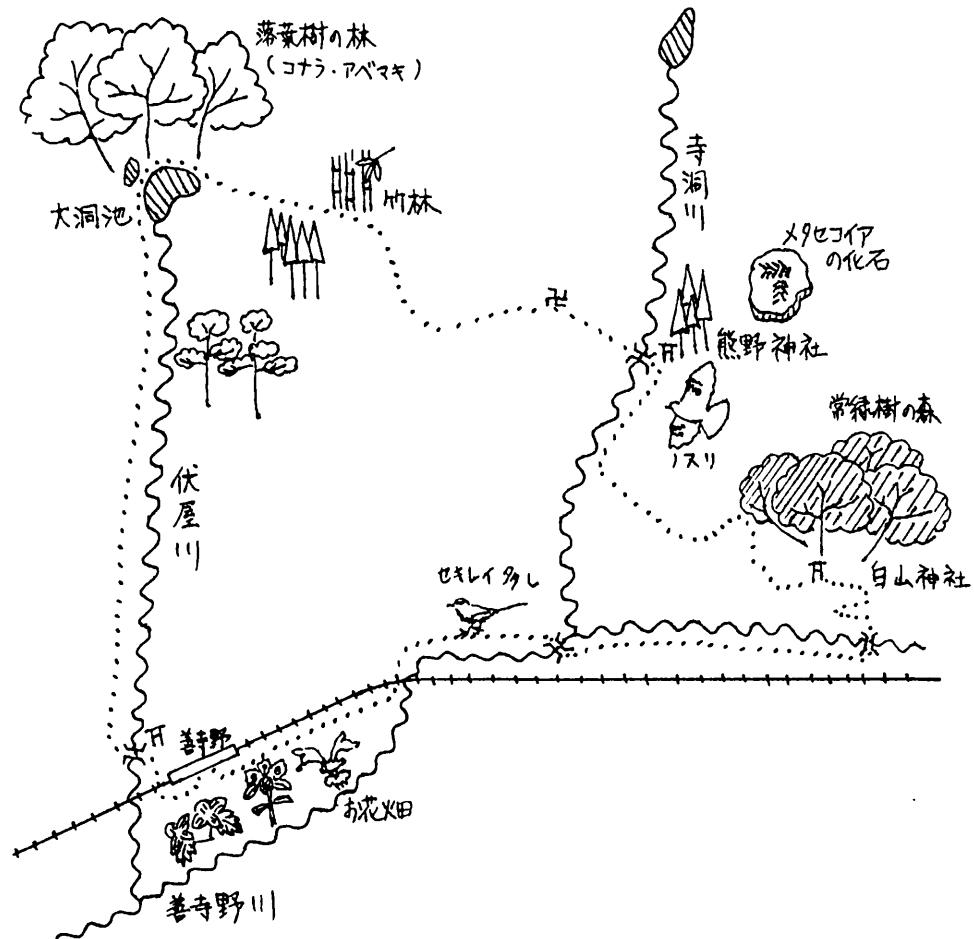
日時：5月12日（日）午前9時～午後2時頃まで（観察会は午前10時頃開始予定）

下見：① 5月 6日（月）午前9時～午後2時 名鉄善師野駅前集合

② 5月11日（土）午前9時～午後2時 同 上

是非、5月6日の下見から参加してください。

善師野はこんなところです（コース略図）



知多支部は、知多地方自然観察会という組織で活動しています。現会員数は約70名で、多くは自然観察指導員ですが、指導員の枠にとらわれず、自然に关心があれば誰でも入会できるという形をとっています。そんな関係で、從来から観察会を催す以外に、会員の研修あるいはお楽しみのための行事を多く行っていて、観察会で指導員として活動するのはちょっと気がひける、という人も気軽に参加できるようになっています。また、これらの活動が、知多地方の自然についての情報交換の場として有効に機能していると自賛しています。

さて、具体的な行事予定を表に掲げました。知多の大きな行事として、5月19日に「磯の生物」の観察会があります。この観察会は毎年恒例になっていて、県の委託で実施しています。参加者数が多く（1994年；64名、1995年；69名）事前の準備も含めて知多支部の総力を挙げて（ちょっと大袈裟かも）取り組んでいます。参加者は、知多全域をはじめ名古屋市とか更に遠方からみえる人も多く、普段馴染みのない海の生き物たちとの触れ合いを楽しんでいきます。磯のあちこちから上がる歓声が指導員にとって何よりの励みになります。海というフィールドの特性（極めて多様な分類群に属する生き物が見られる）を生かした観察会をしていきたいと思っています。

表 知多地方自然観察会 1996年度上半期行事予定（抜粋）

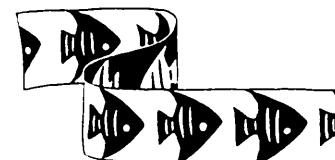
日時	集合場所	テーマ
4.20(土)14:00	美浜町富具崎港駐車場	「磯の生物」自然観察会の下見
5.10(金)18:30	阿久比町中央公民館	「磯の観察会準備」 順・スライド・VTR各持して研修（海辺の生物）
5.19(日)9:00	野間大坊	「磯の生物」県委託自然観察会
6.2(日)10:00	常滑市蒲池漁港南広場	「砂浜の植物と干潟の生き物」 タモ・バケヅキ・ミズヒキ等
7.12(金)18:30	知多市旭公園北駐車場	「灯火に集まる虫」 できれば灯火採集
7.14(日)9:30	常滑市南陵公民館	「大谷海岸の観察」 タモ・バケヅキ・ミズヒキ・ミズヒキ等
9.13(金)19:00	常滑市松原公園西口	「ナイトハイク」 懐中電灯・蚊取り線香・運動靴

もう一つ、7月14日に予定している「大谷海岸の観察」をご紹介します。この見所は、海岸の切り立った崖で、珊瑚礁、火山灰層などの地層がつぶさに観察できます。実はここを観察会で取り上げるのは初めてで、不慣れなため多少の不安があります。海に囲まれた知多半島ですが、自然の海岸線が残っているところはわずかになっています。そんな中の一つとして今回取り上げてみました。

また、表には書き込んでいませんが、各市町単位でミニ観察会を行っていこうという方針を今年から立てて、地元在住の指導員（会員）が中心になって、東海市、知多市、半田市、東浦町、武豊町などで自然観察会が予定されています。既に何年かの実績があって軌道に乗っている観察会もあれば、これから始めるのでどうなるか不安だというようなものもあります。

協議会他支部の皆さんから、いろいろご意見、ご感想などをいただけたらたいへんありがたいと思っていますので、是非お出かけください。なお、知多地方の行事に関するお問い合わせは知多地方自然観察会代表・加藤（電話0562-83-8425）、庶務・降幡（電話0562-55-6855）までどうぞ。

（文責・柳原 靖）



活動予定

X ふんじや ふんじや 通信 X

- 5月 5 (日・祝) 9:30 (シリーズ観察会) マメナシの花<守山環境事業所前>
 11 (土) 9:30 (協議会) 研究会—今後の自然観察の指導方法<市公会堂
 12 (日) 9:30 猪高緑地自然観察会
 12 (日) 9:30 大高緑地自然観察会
 10:00 岳見高原自然観察会
 15 (水) 18:30 室内例会<市教育館 6 研>—樹木医あれこれ (鈴木重蔵氏)
 19 (日) 9:30 東山自然観察会
 25 (土) 10:00 青少年公園自然観察会
 26 (日) 8:00 热田の森自然観察会
 9:30 相生山自然観察会
- 6月 2 (日) 9:30 大森自然観察会
 8 (日) -:- (協議会) 基礎研究会—シダ植物の観察<----->
 9 (日) 9:30 大高緑地自然観察会
 10:00 岳見高原自然観察会
 15 (土) 9:30 猪高緑地自然観察会
 16 (日) 9:30 東山自然観察会 (第100回記念)
 19 (水) 18:30 室内例会<市教育館 -->—未定
 22 (土) 10:00 青少年公園自然観察会
 23 (日) 8:00 热田の森自然観察会
 9:30 相生山自然観察会

—名古屋支部室内例会のご案内—

名古屋支部では、8月を除いて毎月、原則として第3水曜日に、次のように実施しています。

- ・時間と場所：18.30～21.00 名古屋市教育館の研修室
- ・テーマ：観察会に役立つ知識、方法、経験の交流など
参加者の研修・観察などの報告・紹介など—会員を中心に、その道に詳しい人を講師・報告者に依頼して、話を聞いたり、意見・質問を出し合います。
- ・その他、事務連絡・会計・資料の交換・自由な話し合い・雑談など、会員の交流・親睦の場ともなっています。
- ・3月（春分の日）と9月（敬老の日）は、午前中に、猪高緑地自然観察会を実施し、午後、名東社教センターで、室内例会を行なっています。
- ・参加者には、会場費の一部に、50円のカンパを自由意志で、お願いしています。

新入会員の方が会に慣れて頂くには、始め少し我慢して、この会に出られるのがよろしいかと思われます。

(終了後、有志で一杯という方々もあるやに聞いています。勿論、自由意志で)

行事案内

☆研究会「これからの自然観察会」

期日：平成8年5月11日（日）

13:30～16:00

場所：名古屋市公会堂 集会室
(鶴舞公園入口)

内容：パネルディスカッション方式

☆基礎研修会「シダの観察」（野外）

期日：平成8年6月8日（土）

9:30～昼

場所：定光寺（参道前駐車場集合）
(JR定光寺駅から徒歩20分)

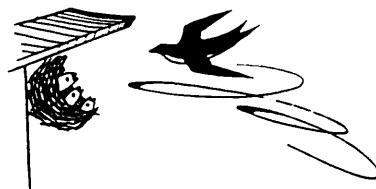
講師：村瀬正成

☆基礎研修会「ゴミ問題について」（室内）

期日：平成8年7月7日（日）

場所：（次回連絡）

講師：愛知県職員（予定）



図編集後記

草花が愛しく見える時季になりました。

なんとか、佐藤さんとの約束どおり、締切りまでに編集をし終えることができました。随分佐藤さんにお手伝いいただいたが、それでもやってみるとなかなか大変でした。この先、思いやられる気もしますが、寄せられた原稿を一足お先に拝見できる楽しみもあります。

皆様の原稿をお待ちしています。（近藤）

※※各地の自然※※

▼アサギマダラの渡り

伊良湖岬での観察では、平成7年9月19日から11月12日の間にアサギマダラの渡りを421匹観察しました。

最も多かったのは、10月10日の153匹でした。

（藤原優年）

▼森林公園にオジロワシ

平成8年2月18日～3月3日まで森林公園の岩本池の近くにオジロワシの若鳥が滞在しました。一時はカタジロワシと新聞報道されました。

（高谷昌志）

▼長久手町にトウキョウサンショウウオ

この3月20日に長久手町内でトウキョウサンショウウオの卵塊を確認しました。

（篠田陽作）

＝ 目 次 ＝

フェノロジーへのいざない	1
会員紹介	3
間瀬美子、大谷敏和	
ネーチャートレールの実施結果	5
我輩はカヤツリグサである	6
子供が楽しんだ「朽木に住む虫の観察」	7
図鑑の使い方	8
レッドデータブック愛知県版のご案内	10
自然観察会に参加して（1）	11
事務局から	14
支部だより	16
（尾張、知多、名古屋）	